



新年のご挨拶



院長 有山 重美

新年あけましておめでとうございます。

当院は40年前より宇部の片倉の地で老人医療を実践してきました。その間に日本では少子高齢化が徐々に進行して行きました。私たちは高齢者に対してより良い医療の提供を目指してまいりました。しかし、最近では老人医療の分野で加齢により自立機能が低下した状態が、フレイルやサルコペニアと呼ばれるようになりました。この状態については、早期に対策を行うことにより予防や遅延が可能であると科学的な検証が行われています。

老人医療を行う者の多くは、患者さんの病気が治ってみたら寝たきりになっていたということを経験したことがあると思います。そうならないためには、この状態を包括的に評価し介入することで高齢者への対策を行うことが肝要です。医療を行う上で、単に病気を治すだけではなく、個々の背景となる身体能力（予備機能）を知ることにより、QOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上を加味した医療・看護・介護を行いたいと思っています。



～新たなスタート、 基本に戻って～



看護部長 西島 陽子

新年あけましておめでとうございます。

皆様のおかげで、無事に新しい年を迎えることができました。

2020年、元号が令和に代わって年の初めを迎えて東京オリンピックも開催されます。「子年」は十二支の一番で、新しいサイクルがスタートする年と言われ、特別な1年であり、大きな節目になる年です。

地域包括ケア、少子高齢化という言葉も様々なところで聞かれています。その中で、看護の質を向上させたいと様々な試みを行ってまいりましたが、気持ちを新たに基本に戻り、看護・介護を見直し患者さん利用者さんにケアの「品質」を提供したいと考えています。

「子」は危険察知能力が高く、環境への適応能力も高いと言われています。私たち看護職も適応能力を上げて、皆様に満足していただけるケアにこだわり今年取り組んでまいりたいと思います。職員の健康と明るい笑顔でスタートしたいと思います。

「嚥下（えんげ）講演会」開催しました！



講師：原 浩貴教授

座長：高橋 幹治理事長

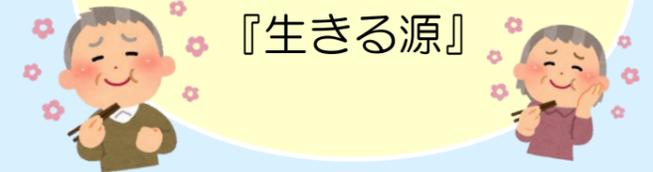
昨年11月、隣接する片倉病院で第1回「摂食嚥下講演会」を開催しました。講師は、川崎医科大学耳鼻咽喉科 主任教授の原浩貴先生をお迎えし、嚥下障害や安全においしく食べるケア方法について分かりやすく解説していただきました。院内外から集まった、116名の参加者は、熱心に耳を傾け大変好評でした。

嚥下障害になるとうまく飲み込めず、窒息（ちっそく）したり、誤って肺の方に送られ「誤嚥性肺炎（ごえんせいはいえん）」になったりします。

今回の講演で学んだ知識と技術を活かし一人でも多くの患者さんへ「口から食べる」喜びを感じ「おいしい笑顔」が見られるよう励んで参ります！



『口から食べる』
||
『生きる源』



当院の嚥下チームは、医師・看護師・リハビリスタッフ・管理栄養師・薬剤師が協働し、患者さんに適した飲み込みやすい食事や一口量・安全に食べる姿勢などについて対応させていただいています。また、患者さんや嚥下障害を抱える方々へ「四季を楽しむビジュアル嚥下食レシピ」を原教授の編集のもと出版いたしました。興味のある方は、ぜひご覧になってください。

嚥下チーム一同

これらの料理は
すべて嚥下食

